

平成 30 年度 第 10 回 横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会 議事録

日 時	平成 30 年 6 月 20 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分
開 催 場 所	横浜市庁舎 5 階関係機関執務室
出 席 者	委員 7 名：岸井委員長、治田副委員長、足立委員、石川委員、国吉委員、西田委員、野原委員 事務局（都市整備局）：村上都心再生部長、黒田都心再生課担当課長 ほか
欠 席 者	矢ヶ崎委員
開 催 形 態	非公開
次 第	関内駅周辺地区エリアコンセプトブック（現庁舎街区活用事業版）について
概 要	<p>議題について事務局から資料の説明をした後、委員による協議を実施（主な発言要旨）</p> <p>1. 関内駅周辺地区エリアコンセプトブック（現庁舎街区活用事業版）について</p> <p>(1) 市民意見募集について</p> <p>○第 1 章だけでは抽象的な部分が多く、市民の意見はなかなか出てこないと思う。第 2 章の概要や項目など（現市庁舎の仕様や歴史、現市庁舎街区に求められる機能や形態等）、具体的な内容も示し、市民意見募集をするべき。</p> <p>○市民意見募集を行う意図を明確にすべき。何を市民に聞いた上でどのように反映するつもりなのか、市が何を考えているのかももう少し出さないとやる意味がないのではないかな。</p> <p>(2) まちづくりの方向性について</p> <p>○本事業が関内関外地区の次のあり方に波及するというので、もっと関内関外地区全体のまちづくり内容があった方がよい。『ここでのプロジェクトによって、関内駅周辺地区以外のその他の関内地区を変えていくということがあって、その最初の出発点として本事業を行っていく』というメッセージを記載すべき。</p> <p>○文化体育館や教育文化センター跡地など、関外側の具体的な内容がみえたから、『それを踏まえて現市庁舎街区をどうするのか』など、それぞれの街区の関係性や全体がどう動いていくかをもう少し見せるべきではないかな。</p> <p>○今回実施する新しい計画を記載するだけになっており、このまちが、今までどういった経緯で進んできたかも含めて全体のまちづくりの方向性を示すべきではないかな。</p> <p>○どういう戦略とロジックで、ここを観光の中心にしたり、交通広場にしたりするのか、明確にすべきではないかな。また、観光客がきたときに、どういう動線をとるのか、もっと検討すべきではないかな。</p> <p>○「横浜市の資源」のページは、具体的施設の記載のみではなく、横浜市のどんな施策の中で、どのような資源として捉えているのかを記載すべき。</p> <p>(3) 現市庁舎街区について</p> <p>○現市庁舎街区への提案によって、隣接する港町民間街区など、周囲にどのような影響を及ぼすのかも提案させるべきではないかな。</p> <p>○現在の現市庁舎について、歴史的経緯や図面、建築データなど、きちんと記載すべき。</p> <p>○これからの経済を考えて、選ばれる地域、残る地域になるためにはどうするのかということを明確にすべきではないかな。</p>

	<p>○何でもやってよいと言い過ぎではないか。事業者にとっては、ある程度、求めているもの、望んでいるもの、考えるきっかけを示したほうがよいのではないか。また、具体的な市の部局での事業や戦略、部局間連携なども踏まえた具体的提示や要求、あるいは、市としての支援体制のあり方も示した方がよいのではないか。</p> <p>○公募までに審査委員会の議論時間が限られている中、差し戻しの少ないエリアコンセプトブック作成プロセスが求められる。公民連携のまちづくりについて、関係者全体の意識合わせが必要だ。</p>
資 料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 議事次第</li> <li>2 今後のスケジュール</li> <li>3 12月の委員会における議論</li> <li>4 関内駅周辺地区エリアコンセプトブック現市庁舎街区活用事業版（未定稿）</li> </ol>